

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070000254		
法人名	社会福祉法人 育心会		
事業所名	グループホーム 白梅の里		
所在地 (電話番号)	京都府みやこ町犀川久富1616 (電話) 0930-42-0637		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年8月26日	評価確定日	平成21年10月6日

### 【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 2 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 5.7 人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	1 階建ての		1 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,800 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	600 円	

#### (4) 利用者の概要 (8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 86.9 歳	最低 77 歳	最高 97 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉永病院(内科・外科)・よしなが歯科
---------	--------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護保険制度の始まる前から高齢者ホームとしての歴史をもつ「白梅の里」は今年開設11年目を迎えた。犀川の自然豊かな環境と地域住民との自然なふれあいが、昔懐かしい雰囲気を感じさせる。11年の歳月はホームに落ちついたやさしい時間をつくり、入居者は畑作りなどをしながら穏やかな時間を過ごしている。流れる月日の中で出来ていた事ができなくなってきた入居者の方々もいるが、職員は楽しめることや出来ることを把握しながら能力を引き出すようにしたいと、日々のケアに取り組んでいる。民家改造型のこのホームは、畳・ふすま・障子があり懐かしい空気がある。地域の方の野菜の差し入れや地元米などを利用しており、地域に密着していることが伺える。低料金で入居者の方々に負担を掛けない取り組みも行っており、今後は地域の方々への貢献をどうすれば出来るのか考えていきたいとの意向があり、今後の活動が楽しみホームである。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、理念に地域との関係性を追加するなど、改善に向けて取り組んでいる。また職員全員が外部研修に参加するなど、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員には外部評価の説明を行っており、管理者によってまとめられている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は市町村担当者や介護相談員、地域代表や家族の参加により定期開催されている。生活状況や職員の異動、施設整備の進行状況等の報告や意見交換が行われ、災害時の協力体制についても話し合いが行なわれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	訪問時や運営推進会議会議の出席時に、意見を伺う機会を積極的に持つようにしている。意見があった時には、職員や管理者による迅速な対応に努めている。対応方法や結果についても記録を整備している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方や保育園児が野菜を差し入れてるなど、無理なく自然な付き合いがある。ホームの行事にも地域の方が参加してくれる。今夏の大雨の時には、水害を防ぐために地域の方が役場に連絡をしてくれ、水路を変える作業などをしてくれる頼れる仲間であった。ホームの歴史も長く、地域との根付いた関係が構築されている。

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	理念として、自立支援・尊敬と共感・ケアサービスの質の確保の3項目を掲げている。方針として、自分らしく日常生活を送ることが出来るよう地域と共に支援する 言語・行動は否定せず、心の奥底にある不安を取りのぞく介護 新しい認知ケアを確実に提供するため全職員研修に参加する、とした方針を新たに策定して地域との交流に取り組んでいる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	居間や食堂・宿直室に、毛筆書きで大きく掲示している。会議やミーティングの際には、理念や方針を確認する取り組みを行っている。昨年は方針に掲げている全職員研修参加を達成することが出来た。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域の方との交流は長く、地区の一員としての存在になっている。地域・ホームでの行事に、相互に参加が行なわれており、形式的なものではなく日常的な自然なふれあいが行われている。自治会に加入しており、敬老会や保育園児との交流など入居者の楽しみとなっている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	前回評価以降、研修参加体制を整え、外部研修への全員参加を実施し質の確保につなげている。これまでの理念に加え、事業所独自の方針として地域との関係性について掲げている。今後も評価の機会を活かして、サービスの向上に取り組んでいきたいと考えている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は市町村担当者や介護相談員、地域代表や家族の参加により定期開催されている。生活状況や職員の異動、施設整備の進行状況等の報告や意見交換が行われ、災害時の協力体制についても話し合いが行なわれている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 白梅の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	みやこ町福祉課との連携を密にし、書類申請時等には訪問し、状況報告を行い意見交換や助言を得ている。毎月介護相談員の来訪がある。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、研修等の学ぶ機会が確保されていない。		権利擁護に関する制度について、必要となった場合には活用できるよう知識を深めていくことが求められる。また資料等を準備し、本人・家族や地域の方々等に情報提供できるように体制づくりにも期待したい。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告	年に4回「白梅の里たより」を発行している。写真による行事の報告や職員の紹介、家族への依頼等についてわかりやすく伝えている。2ヶ月に1回「近況報告」も発送しており、随時行なわれている電話連絡を含め、家族との連携を図っている。金銭管理も法人の金庫に保管しており、3ヶ月に1回ご家族に報告を行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	訪問時や運営推進会議会議の出席時に、意見を伺う機会を積極的に持つようしている。意見があった時には、職員や管理者による迅速な対応に努めている。対応方法や結果についても記録を整備している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	基本的に法人内での異動は行われていない。今年度は離職者もなく、馴染みの関係づくりが安定している。今後も働きやすい環境づくりに努め、馴染みの関係を保つことを大切にし、入居者・家族の安心に繋げていきたいと考えている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用には、性別や年齢は関係していない。法人として人事考課制度を取り入れ、目標を持ちその能力が十分に活かされるよう配慮している。管理者は職員の仕事しやすい環境作りを重視して取り組みたいとの意向がある。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようになっている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 白梅の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人として取り組んでおり、弁護士・社会保険労務士・カウンセラー等の講師による研修が行なわれている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部研修(社会福祉協議会主催等)への全員参加への取り組みが行なわれている。また報告書の作成・発表により、共有が図られている。法人としても定期的な研修が実施されている。今後は研修計画作成により、更に質の確保に向けた取り組みにも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に参加し、月に1回交流を深めている。今後は職員間の交流も含めた相互訪問や勉強会等への取り組みにも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	現在の状況確認や、本人・家族との信頼関係を築くためにも必ず訪問し、意見や要望等の情報収集を行っている。見学や体験入居により、馴染みの関係づくりを行ないながら、安心して入居できるよう柔軟に支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中でゆっくりと話を傾聴しながら、一緒に過ごす時間を大切にしている。畑仕事など、入居者の方々に教えてもらうことも多い。カラオケや将棋を職員とともに楽しんでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>関係者との連携により、健康状態や生活状況を把握するとともに、本人・家族の要望にホームとしてどこまで対応できるか十分に検討している。思いを伝えることが困難な方には、表情や行動から汲み取り把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の要望を重視し、これまでの生活ができるだけ継続できるよう関係者と協議し、情報を整理・分析しながら介護計画を作成している。</p>		<p>地域密着型サービスの特性を活かして、更に本人の全体像を把握し、より多面的なアプローチにも期待したい。関係者との更なる連携により、個別・具体的な計画作成が望まれる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な計画の見直しを行っている。心身の状況に変化があった場合は、その都度変更を行なっている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>地域の高齢者の状況に応じて、ショートステイの活用や独居高齢者の自宅訪問を行い、必要があれば居宅支援事業所との連携により支援している。同法人施設の行事に家族とともに参加し、外出・交流の機会となっている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の意向による、入居前からの主治医への受診を支援している。看護師が3名勤務しており、状況により職員が受診に付き添い、医療機関と連携して入居者の健康管理を支援している。</p>		

グループホーム 白梅の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		重度化や終末期に向けた方針の共有			
22	49	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期への対応については、入居時に説明を行い、状況に応じて医療機関や同法人の施設への紹介をしている。今後は医療連携も検討していきたいとの意向がある。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
		プライバシーの確保の徹底			
23	52	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳やプライバシーへの配慮として、声のトーンを落とし、耳元での優しい声かけを行い、居室への入室時には必ずドアをノックするなどの対応が行なわれている。守秘義務や個人情報保護については法令遵守に努めている。		
		日々のその人らしい暮らし			
24	54	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの時間を大切に考えている。昼夜逆転している方には食事時間をずらす等の柔軟な対応に努めている。個性を大切にしながら個人のペースにそって、のんびりと思いのままに過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		食事を楽しむことのできる支援			
25	56	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族や地域の方々から旬の食材の差し入れを受けることも多く、またホームの畑で育った新鮮な野菜が食卓を飾ることもある。食事を美味しく食べてほしいと日々取り組んでおり、職員も一緒に食事を楽しんでいる。		
		入浴を楽しむことができる支援			
26	59	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴できるように準備し、本人の意思を尊重した柔軟な支援に努めている。拒否される方にも、タイミングや声かけを工夫しながら支援している。また時間を問わず、必要に応じてシャワー浴を行なっている。		

グループホーム 白梅の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	庭の草取り・洗濯物の整理・掃除の手伝い等、できる範囲で手伝ってもらっている。家族の協力を得て、自宅への訪問や外泊なども支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天気の良い日は、ホームの庭や近所への散歩に出かけている。また法人の車を活用して、ドライブや買い物にも出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	施錠することの弊害は理解している。センサーの取り付けや見守りに対応するようにしていたが、現在危険を伴う場合があるので状況に応じて施錠を行なっている。家族にも説明をしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	2ヶ月に1回の避難訓練を行なっている。同法人や地元消防団との緊急連絡網を整備し、目の付きやすい所に掲示している。今夏の大雨では地域住民の協力が実践的に役立っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養士・看護師の配置があり、旬の野菜を中心とし、肉・魚を交互に取り入れるなどの工夫がされた、バランスに配慮された献立が作成されている。食事摂取量を記録し、状況により水分摂取量も記録している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 白梅の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	民家を改造しているため、直線的ではなく懐かしい雰囲気にあふれている。居間にはテーブルやソファが配置され、縁側もあり、のんびりと居心地良く過ごせる場所となっている。障子により採光の調節が行なわれている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室入り口には表札がかけられ、個人の部屋としてわかりやすいようになっている。襖に畳の和室だけでなく洋室もあり、今後は家族の協力を得ながら、更にその人らしい部屋づくりに取り組みたいと考えている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			